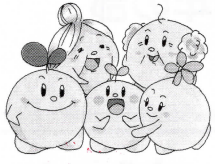


社会福祉法人 鶴田町社会福祉協議会



幸せの種まき運動事業
イメージキャラクター
「種まきくんファミリー」

ふれあいひろば



題字 NOGI こども園 さとう あいひ さん

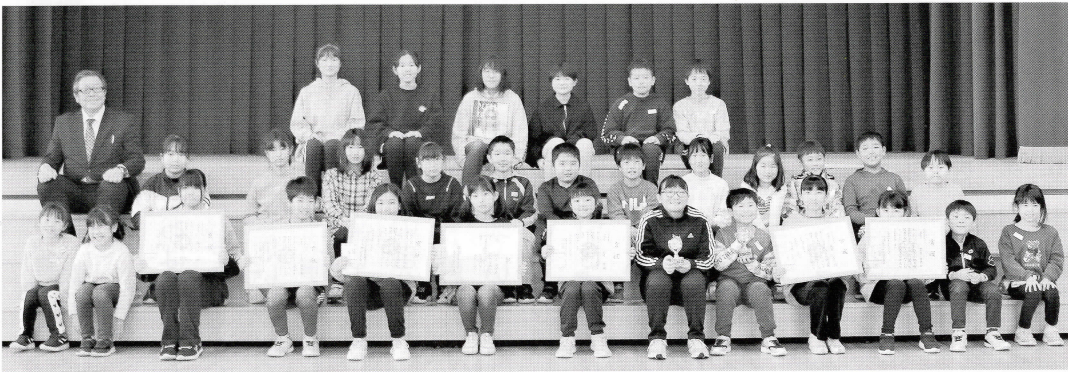


2月7日に鶴田中学校、2月21日に鶴田小学校において、本年度の鶴田町福祉作文コンクール表彰式が行われました。

このコンクールは、町内小・中学校の児童生徒を対象に、福祉への関心を高めてもらう機会として毎年開催しています。

本紙2ページに小学校高学年の部最優秀賞の貴田海樺さんの作品を掲載しています。

令和4年度鶴田町福祉作文コンクール表彰式
 鶴田小学校と鶴田中学校



△鶴田小学校の受賞された皆さん



△鶴田中学校の受賞された皆さん

〒038-3503 青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字沖津193
 ○編集と発行 鶴田町社会福祉協議会 TEL.22-3394 FAX.22-6322
 HPアドレス：<http://tsuruta-syakyo.or.jp/>
 ○印 刷 有限会社 アート印刷

発行

鶴田町社会福祉協議会HP



この広報は、赤い羽根共同募金の配分金によって発行しています。

令和4年度福祉作文コンクール入賞作品 小学校高学年の部 ★ 最優秀賞 ★

おばあちゃんとの約束

鶴田小学校 6年 貴田 海樺
きだ うみか

今から三年前の二月の終わりころのことです。大好きなおばあちゃんに、病気が見つかりました。「肺炎」です。聞いた時は、とてもショックでした。

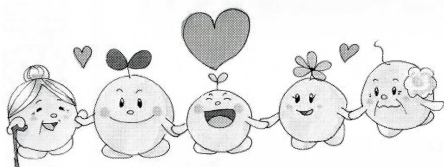
おばあちゃんは入院しましたが、新型コロナウイルスが流行し始めたころだったので、お見舞いに行つてあげることができませんでした。(おばあちゃん、病気に負けないで。元気になってね。)と、わたしには祈ることができませんでした。

わたしがおばあちゃんに会えたのは、亡くなった後でした。わたしが知っているおばあちゃんではありませんでした。体は冷たくて、「おばあちゃん、おばあちゃん。」と、いくら呼んでも返事はありませんでした。

わたしは、とても後かいました。(もっと、おばあちゃんを大事にすれば良かった。もっと会話をすれば良

かった。)

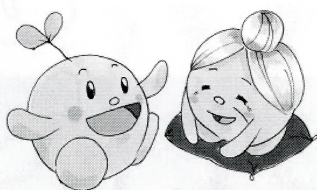
わたしは、おばあちゃんが元気だったころに、おばあちゃんとの三つの約束をしたことを思い出しました。一つ目は、「家族を大事にすること」です。家族みんなが楽しく安心して暮らせるように、今の自分にできることをしっかりとやろうと思います。二つ目は、「いつでも笑顔でいること」です。わたしは、つらいことや苦しいことがあると、後に引きずってしまうことがあるので、これからは、どんなにつらいことや苦しいことがあっても、最後には笑顔でいられるようにしたいと思います。三つ目は、「支えてくれる人に感謝すること」です。わたしは今、夢や希望をもち、生き生きと楽しく過ごしています。たくさんの人に支えられていることに感謝し、一日一日を大切に生



きたいと思います。

おばあちゃんとの約束の話をしたのは、わたしが小学三年生の時です。とつ然のごとでびっくりして、わたしは何も言うことができませんでした。おばあちゃんのお通夜で、お別れの手紙を読み、その中で約束への返事をすることができました。悲しかったけど、少しほっとした気持ちになりました。

自分一人では、生きていくことはできません。おばあちゃんとの約束、「家族を大事にすること」「いつでも笑顔でいること」「支えてくれる人に感謝すること」は、おばあちゃんから大切なメッセージです。三つの約束を守れば、天国にいるおばあちゃんも喜んでくれると思います。
「おばあちゃん、約束は絶対守るからね。天国から見守っていますね。」



令和4年度福祉関係表彰者

(順不同・敬称略)

1月23日、青森県庁において令和4年度青森県ふれあい活動功労者知事表彰式及び令和4年度ボランティア功労者厚生労働大臣表彰状伝達式が行われました。
受賞された皆さん、誠におめでとうござい
ます。

◇青森県ふれあい活動功労者知事表彰
みどり町 三浦京子さん

◇ボランティア功労者厚生労働大臣表彰
駅前通り 鈴木芳子さん
相原町 三戸さつさん



(左)三戸 さつさん (右)鈴木 芳子さん

鶴田町社会福祉協議会

地域福祉活動計画

昨年の9月から始まった地域福祉活動計画の策定は、1月30日に第5回作業部会で「当計画素案の検討」、2月17日に第3回策定委員会で「当計画の素案決定」を経て、3月3日、策定委員会より会長に答申が行われました。

地域福祉活動計画とは、鶴田町社会福祉協議会が呼びかけて、地域住民や関係機関、福祉団体などと相互協力して策定する、地域福祉の推進を目的とした民間の行動計画です。

今後は当会の理事会・評議員会の承認を得て、完成となり、5月頃にダイジェスト版を每户配布する予定です。

これまでご協力いただきました策定委員並びに作業部会委員の皆様には心より感謝申し上げます。



作業部会委員の皆さん



策定委員の皆さん

みんなで作るみんなの居場所

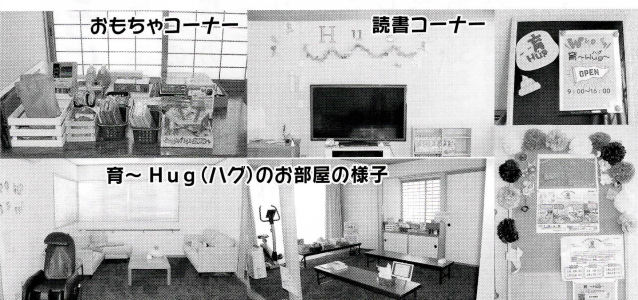
「育〜Hug（ハグ）〜」

育〜Hug（ハグ）〜とは、日曜日(隔週月2回)ボランティアスタッフの見守りの中で、子供達が自主遊び(工作活動やボール遊び、ボードゲームなど)や自主学习(宿題や読書など)を行うことのできる、安心で安全な居場所を提供する事業です。

また、子どもをきっかけとした、世代間交流や地域コミュニティの形成にもつなげていくことを目指しています。

一度遊びに来てみませんか!!
※保育や教育を行うものではありません。

開設日時	・4月9日、4月23日 ・5月14日、5月28日 いずれも日曜日 9:00~16:00 ※好きな時間に来て、好きな時間に帰ることができます
開設場所	鶴田町保健福祉センター「鶴遊館」 ※送迎はございません
対象	小学生以上(保護者同伴可)



育〜Hug（ハグ）のお部屋の様子

夢を応援基金 ひとり親家庭支援奨学金制度 募集案内



ひとり親家庭のお子さんが「進学したい」との希望を持ちながら、経済的な理由により夢をあきらめなくては済むよう、「夢を応援基金」として全国母子寡婦福祉団体協議会(以下、全母子協)とローソンググループが力を合わせ、給付型奨学金で生徒さんを応援します。

【奨学金】

・月額3万円(返還不要・他の奨学金との併用可)
※2023年4月～2024年3月までの1年間

【募集人数】

・全国400名(各都道府県4名)

【対象学年】

・中学3年生、高等学校(1～3年生)、高等専門学校(1～3年生)等に在籍する生徒(2023年4月現在)

【応募方法】

・応募資格、申請書類等の提出がごさいます。詳細は全母子協ホームページをご覧ください。申請書類は鶴田母子寡婦福祉会(鶴田町社会福祉協議会)でもお配りしております。

【申請締切】

・4月27日(木)必着

【お問い合わせ先】

・全国母子寡婦福祉団体協議会
03-67718-4088
・青森県母子寡婦福祉連合会
017-735-4160



◆お詫びと訂正◆

1月31日号(No.359)の広報2ページ「令和4年度鶴田町福祉作文コンクール入賞者紹介」の欄に誤りがありましたので、お詫びを申し上げますとともに、下記の通り訂正させていただきます。

◆鶴田小学校 低学年の部

(誤) 花田 虎太郎
(正) 花田 虎太郎

◆鶴田小学校 中学年の部

(誤) 工藤 宗輔
(正) 工藤 宗輔

つるた乳幼児園

クリスマス募金による寄付

1月6日、つるた乳幼児園の福澤園長、くどう こつすけさん(右)、さいとう るなさん(中央)、むなかた あさとさん(左)が訪問され、赤い羽根共同募金へ4万5111円の寄付をいただきました。
ありがとうございました。



鶴田小学校 プルタブ寄贈



1月13日、鶴田小学校から全校児童で集めたプルタブ93kgを寄贈いただきました。

「車イス」の購入に役立てます。ありがとうございました。

写真は、とりまとめて寄贈した鶴田小学校ボランティア委員会と鶴田小学校のみなさんです。



善意の灯

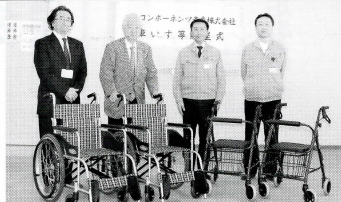
(令和5年1月11日～3月10日：敬称略)

一般寄付(金銭)

瓜田 良一	100,000 円
小野 恭逸	100,000 円
匿名	100,000 円

一般寄付(物品)

ハイコンポーネンツ青森(株)
車いす 2台、歩行器 2台



つぶやき

「天災は忘れないうちにやってくる」

世の中の恐ろしいものは「地震・雷・火事・親父」と言われて育ったが、今の子ども達も言われているのだろうか。昨今親父の威厳は薄れぎみのようだが「いざ鎌倉、ここぞ!!」というときに「頼りになるのはやっぱり親父」と言われないものだがハテサテ...

それにしても天災は忘れないうちにやってくる。「備えあれば患えなし」とは言え、その備えをいとも容易く破壊するのが天災だ。

近年でも1983年(昭和58年)5月26日昼の日本海中部地震。死者104人。負傷者163人。
1995年(平成7年)1月17日朝の阪神・淡路大震災。死者6,434人。負傷者43,792人。行方不明者3人。

2011年(平成23年)3月11日午後の東日本大震災。死者19,225人。負傷者6,219人。行方不明者2,614人。未だ復興途上。鮮烈な恐怖戦慄。

2023年(令和5年)2月6日朝のトルコ・シリア大震災。正確な数字は不明だが死者は5万人超。瓦礫の下にはたくさんの方不明者が残されているのだろうか。被災者190万人。

天災であるが故に被災された人々は怒りの矛先を向ける先も術もなく締めや傷に嘔まれながら懸命に生きていくに違いない。何としても緊急の支援救助が必要だ。

社会福祉の有り様は世界各国ごとに差異があると思うが人の命の重さに差異があるはずがない。救いを求める「刹那の手」があるなら「慈悲の手」を差し伸べる心を持つ人間でありたいものだ。自分の子どもに恐ろしくて厳しい親父の背中を見てもらえるような生き方をしてきたらどうか、自問自答の日々である。
(竹浪 正顕)